

接触皮膚炎は日常診療で最も遭遇する皮膚病である。施設で異なるが統計的な頻度は4~30%という。診断や治療は容易であるが、そのアレルゲンを確定し接触を断つことができれば根治できる疾患である。しかし、アレルゲンが究明されないと症状は再燃を繰り返し慢性化や重症化する。職業病の適切な治療や予防対策は患者の将来を左右する。患者自身が普段何気なく使用していることが多く、われわれ診療側の力量が問われる。

生活様式の変化に伴い、数々の日用品、化粧品、外用薬などの接触皮膚炎が報告されているが、時代とともにアレルゲンは変化する。接触皮膚炎ガイドラインによると、昭和35年からの10年間は外用薬が最も多く、45年以降はそれまで第2位だった化粧品が外用薬を抜いた。アイシャドーやメイク製品という顔の化粧品や染毛剤やコールドパーマ液などの頭髪用品使用頻度に起因する。昭和59年以降はピアスなど金属装身具、園芸ブームによる植物皮膚炎も増加した。皮膚障害が多く規制されたりブームが終わり減少するものもある。

今回の特集号をみても、アロマオイル、ジェルネイル、紫外線吸収剤、植物、外用薬や医療材料などが報告されている。明日からの診療に役立つ内容であり、是非とも参考にしていただきたい。診断にパッチテストは有用であるが、手間が掛かること通院回数が多いことでためらう場合が多い。手軽なパッチテストを少なめに行い、判定をスマホ撮りにすればもう少し普及できるような気がする。

本誌では接触皮膚炎の特集号が今まで数多く取り上げられている。年代別に社会情勢や流行などを組み込んで、接触皮膚炎の変遷といった特集号の企画はいかがであろうか。常に時代の流れに取り残されることなく、新たな流行や人気のある商品や化粧品などに目を向け、いろいろな情報を収集しておくことが大切である。(H.M.)

特集 バリア障害(仮)

◆editorial

向井 秀樹

◆総説

遺伝性の表皮の疾患からみえてきたアトピー発症における
皮膚バリアの重要性 山本 明美ほか

◆topics

皮膚バリア、最近の進歩—ケルビン14面体モデル—

横内麻里子, 久保 亮治

炎症性腸疾患とアトピー性皮膚炎

壽 順久ほか

◆治療

治せないアトピー性皮膚炎：外用アドヒアランスを高めて治す
—目覚めよ！8000人の皮膚科医、今こそ治療法の再学習の時—
片桐 一元

◆臨床例

黄色ブドウ球菌菌血症を生じた重症アトピー性皮膚炎

林 剛生ほか

アトピー性皮膚炎を合併したCostello症候群

小越 達也ほか

アトピー性皮膚炎患者に発症した感染性心内膜炎

清水 智子ほか

メタクリルレジンアレルギーによる難治性手指皮膚炎

増澤真実子ほか

入院加療したアトピー性皮膚炎の2症例

一病勢マーカーとして角層テープの有用性— 新山 史朗ほか

炎症性腸疾患を合併したアトピー性皮膚炎 本多 皓ほか

難治性喘息に対しオマリズマブ投与中のアトピー性皮膚炎患者の経過 梅本 尚ほか

相反する経過を辿った重症かつ難治性アトピー性皮膚炎2症例

向井 秀樹ほか

新生児期から経過を観察しえたARCI(葉状魚鱗癬)の男児例

伊勢友加里ほか

KID症候群における表皮バリア機能に関する検討

谷崎 英昭ほか

アトピー性皮膚炎と手足皸

澄川 靖之

self-improving collodion ichthyosis

後藤 克修ほか

色素性乾皮症

森脇 真一ほか

◆the case of the month

乏汗が悪化要因と考えられた成人アトピー性皮膚炎の3例
室田 浩之ほか

◆学会ハイライト

第68回日本皮膚科学会西部支部学術大会をふりかえって
山元 修

◆皮心伝心

「患者」は「症例」ではありません 河井 一浩

◆蝶の博物詩

西山 茂夫

◆診察室の四季

斉藤 隆三

◆皮膚科のトリビア

浅井 俊弥

◆声(質疑・応答を歓迎します)

皮膚病診療 Vol. 39, No.7(2017)

平成29年 6 月25日印刷

平成29年 7 月 1 日発行

1 部定価2,400円(本体) + 税 送料82円

年ぎめ予約購読料35,800円(本体) + 税

発売所／丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 西岡 清

発行人 山田 淳史

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5 3階

電話：03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座：00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購読ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2017年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。